

短編小説の美学

三 輪 誠 一

1

批評家 M. D. Zabel は H. James の小説、評論、書簡等を集めた *The Portable Henry James* の序文の中で諸家の James 論からの抜粋を引用して James の作家像の簡単な紹介を行っている。批評家たちが James を長編作家とみるのは、文学史的な常識であるが、Zabel が引用する批評家たちのうちの一人は、James の短編作家としての半面を高く評価している。その言葉を次に示したい。この批評家は James を評して、“a man who, if he never had written a novel, would be considered the first of short-story writers” と言う。James は約10編の代表的な長編小説を書いているが、その外に100編を超える短編小説を残している。これまで私の読んだものは、これら短編作品の中の三分之一を少し越える数にすぎないが、今後なお残余の未読の作品を読みたいと考えている。私のこの予定の成否はさておき、この際すでに読んだ彼の短編作品を再読しながら、短編小説という文学ジャンルを考察するのが、この試論の主旨である。James の短編作品について具体的に論述する前に、このジャンルに関して作家および批評家の見解の若干を聞いてみよう。

2

近代の短編小説の形式に相当する物語は古くから存在する。古くは Bible の中にも短い物語があり、近世においては、Boccaccio の *The Decameron* という短編小説集のあることは周知の通りである。しかし短編小説が長編小説とは別の文学ジャンルに属する小説の一分野と考えられ、新

しく小説美学の研究対象となったのは近代のことである。この新しい小説分野の精密な分析と吟味で最も有名なものは E.A. Poe の短編小説、すなわち N. Hawthorne の短編集、*Twice-Told Tales* を論じた彼の essay である。散文作家であり、同時に叙情詩人であった Poe は、まず詩が読者に与える感動を分析し、次いで散文物話が与える文学的效果を論ずる。もっともすぐれた詩は、それが一時間以内に読了できる長さである場合にのみ存在する、と彼は言う。「長い詩 (a long poem) という言葉は矛盾である。詩は人間の感情を烈しく動かさなければならない。感動こそ詩の持つべき特質であり、独自の役割である。しかし強い感動は心理的必然として短時間のうちに消失する (transient) ものである」と言い、長い叙事詩、たとえば *Paradise Lost* に否定的評価を下す。また一方で余りに短い詩については、それが強烈な印象を与えるかもしれないが、その印象が永続性を欠く故にこれを epigrammatism と呼んで排除する。以上のような詩の長短を考察しながら、長編小説の文学的效果を否定する。一気に読了することのできない長編小説は、作者の意図に反して読者の受けべき効果的、統一的印象を妨げるものであるというのが Poe の見解である。Poe は長編小説が達成できない作品の統一性、単一的効果の実現を、短編小説という文学形式の中にだけ認めたのである。

3

次に前述の Poe の理論とは別の立場から、長編小説 (novel) と短編小説 (short story) とを論じ、両者のジャンルの相異を考察した Nancy Hale の essay を紹介したい。Hale は長編小説と短編

小説とを比喻によって説明する。両者の関係はdread-naught（戦艦）とpatrol torpedo-boat（高速水雷艇）の関係であると言う。Haleは作家Frank O'Connorのessayを引用して論評を進めているので、私はO'Connorをrequote（再引用）する。“The short story consists of its attitude to Time. In any novel, the principal character is Time. Even in inferior novels, the chronological ordering of events establishes a rhythm, which is the rhythm of life itself.”長い時の流れの中の人生のある特定の時点において人間が示す一定の心的態度を描くのが短編小説の分野であり、これに対して長い人生のいくつかの時点において起る諸事件、人生行路の起伏のリズムを表現するのが長編小説であるというのが上記の引用文の大意である。O'Connorはさらに長編作家と短編作家の創作方法の相異を次のように述べる。“The short story writer is all the while trying to get round the necessity for describing events in sequence. …… Every short story represents a struggle with Time—the novelist’s Time—a refusal to allow it to establish its majestic rhythms. ……It attempts to reach some point of vantage, some glowing center, from which past and future will be equally visible, ……The short story springs from the heart of a situation rather than mounts up to and explains it.”

O'Connorによれば、短編作家は長編作家の時間的順序に従う事件の叙述、長編小説（novel）に特有な壮大なrhythmの表現を意識的に避ける。そのかわりに彼は過去と未来を同時に見わたすことのできる有利な中心点をさがして選ぶ。長編小説は物語の筋の重要場面に向かって登行してゆくが、短編小説はある一個の状況の中心点から突如としておどり出る。O'Connorは短編小説の特色を約言して“a lyric cry in the face of human destiny”（人間の運命に向かって発する叙情詩的の叫び）と呼ぶ。

Haleは先に述べたように小説作品を船にたとえ、長編小説と短編小説の相異は形式の大小、長短ではなく、その任務の相異であると言う。船も小説作品もそれぞれの任務にしたがって特別に設計されなければならないと説明する。さらに説明を続け

て、小説の場合には、長編と短編はそれぞれにその魅力を異にしていると言い、次のように補説する。

“The attraction of the short story form is the attraction of the personal crisis; but the lure of the novel is the lure of great, big, disorderly, irritating, marvelous life itself.”（短編小説の魅力は個人の危機の魅力であるが、長編小説の魅力は巨大な、無秩序な、人をいらだたせる、奇怪な人生そのものの魅力である。）

以上の引用によってPoe, Hale, O'Connorの三者の小説に対する見解を紹介したが、それらに共通するものは、小説の形式上の長短を超えた、それぞれの素材の特質、創作の際の作者の小説美学的意図の相異が、ジャンルの異なる作品を生むということの確認である。

4

長編小説がひとつの文学形式として次第に成長して、ある程度の発達の段階に達したのは、18世紀の後半であり、それは更に成長を続け、19世紀の前半の終わりには成熟開花の時期に到達する。長編小説のこのような発達史にくらべ、短編小説の発達は少しおくれている。明確な文学的形式としての短編小説が、欧米各国の多くの作家たちの注目を引き始めたのは、19世紀の初期のことである。まずアメリカにおいて、W.Irvingの著、*The Sketch Book*の中の一編、“Rip Van Winkle”が短編小説の先駆的作品とみなされる。(1819-20)。

アメリカにおいては、Irvingに次いで、Poe, N. Hawthorneが短編作家としてあらわれる。フランスにおいては、Mérimée, Balzacが、ロシアにおいては、Gogol, Turgenevが短編小説作品を発表し始める。そして19世紀の後半の終りに近く、フランスにおけるMaupassant、ロシアにおけるChekhovの出現によって、短編小説は、近代文学の決定的なジャンルとして成熟の段階に達する。以上の作家たちの特質にしたがって短編小説は二つの系列に分れて、各相異なる伝統を形成する。W. L. Phillipsはこの二つの伝統をそれぞれPoe-Maupassant tradition, Turgenev-Chekhov traditionと名づける。両者はきわめて対照的な伝統で

あり、短編小説という形式についての理念も、創作方法論も明らかに異なる。前者に属する作家は、創作にあたってまず読者の好奇心をすばやく捕える異常な plot を考案する。物語はサスペンスに充ちた経過を辿りながら、その climax に向かって急速に進む。物語の細部については、作者は compression (圧縮) と economy (切り詰め) を重視する。巧妙に組み立てられた plot と、読者に驚きを与える climax が用意されるのがその特徴である。その好例は Maupassant の「首飾」(The Necklace) であり、作品の総体的効果は物語の終局場面に設けられる。これに対して、後者の小説理念と方法は対照的である。作品の焦点は物語の中における事件ではなく、作中人物の性格の上におかれる。作品の主眼点は異常事件の発生や展開ではなく、読者に作中人物の性格を理解させ、鮮明な印象を与えることである。作者の意図するものは、人物の行動や事件の外面的解決ではなく、人物の内部世界や性格の統合的印象を描出することである。以上二つの伝統を母体とする作品の特徴を要約すれば、一方は巧妙な事件の脚色であり、他方は鮮明な性格描写である。もし両者の方法論を有機的に統合することができたならば作品の成功度はさらに高くなるであろう。この総合的方法論を熱心に検討し、創作活動にもこれを実践したのが Henry James である。彼の essay, "The art of Fiction" (1884) はこの方法論を唱道したものである。これは彼が novel について論じたものであるが、その理念は彼の short story においても十分に実践された。彼は次のように言う。「novel は性格小説と事件小説の二つに大別できるといわれるが、これは時代おくれの区分法である。novel にはまづい小説もあれば、すぐれた小説もある。しかし私

が何等かの意味を認めるのは、この優劣の区別だけである。」(There is an old-fashioned distinction between the novel of character and the novel of incident……, There are bad novels and good novels,……but that is the only distinction in which I see any meaning.) James はさらに続けて言う。「事件を決定するものは性格以外になく、性格を明かにするものは事件以外にない。」(“What is character but the determination of incident? What is incident but the illustration of character?”) 以上によって私は short story の発達と、文学的ジャンルとしての short story の確立の経過を簡単に述べ、このジャンルに関する小説美学の諸見解を紹介した。これをもって短編小説美学の序説とし、次の試論において短編小説の作品の数編をとりあげ、具体的に短編小説美学を論述する予定である。作品は主として James のものを取りあつかい、必要に応じて他の作家の作品を比較対照することにする。

(昭和57年 5月31日)

Bibliography

- Encyclopedia Britannica*, vol.20. "short story," contrib. Phillips, W. L. 1970
Hale, Nancy. *The Realities of Fiction*.
Poe, E. A. *Selected Writings*. *Penguin English Library*.

注、Frank O'Connor (1903-) アイルランドの作家、短編小説集 *Guests of the Nation* (1931) によって一躍みとめられた。他に長編小説、劇作、詩集がある。

Nancy Hale (1908-) アメリカの女流作家、短編小説集 *Between the Dark and the Daylight*. (1943) 他に長編小説の作品もある

——研究社、英米文学辞典 昭和36年